

常任委員会 特別委員会



児童館の現地視察（11/6）



ポケモンマンホール蓋「ポケふた」設置箇所の現地視察（11/7）

総務文教常任委員会

第6回（11月6日）

- ・町内視察結果について
- ・議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正について
- ・特別職の職員で非常勤のものとの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
- ・特別職の職員の給与に関する条例の一部改正について
- ・職員の給与に関する条例の一部改正について
- ・会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について

第7回（12月1日）

- ・オホーツク町村公平委員会を共同設置する地方公共団体の数の増加及びオホーツク町村公平委員会規約の変更について
- ・奨学金条例の一部改正について
- ・放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
- ・部活動バスの運行について
- ・高校生の通学支援について

産業福祉常任委員会

第8回（11月7日）

- ・町内視察結果について

第9回（12月2日）

- ・乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について
- ・特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正について
- ・家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について
- ・住宅生活基本計画・公営住宅等長寿命化計画・耐震改修促進計画の策定について
- ・下水道ビジョン及び下水道事業経営戦略の改定について
- ・つべつ木材工芸館及び木工体験工房条例の一部改正について
- ・公の施設に係る指定管理者の指定について（相生総合交流ターミナル施設）
- ・公の施設に係る指定管理者の指定について（21世紀の森キャンプ場）

議会広報常任委員会

第1回（1月14日）

- ・議会報201号の編集について

議会運営委員会

第8回（11月27日）

- ・第7回津別町議会臨時会の運営について
- ・令和6年度各会計決算の認定について

第9回（12月10日）

- ・第8回津別町議会定例会の運営について
- ・意見書等の取り扱いについて

議員定数調査特別委員会

第4回（12月17日）

- ・議員定数について

議会の録画映像を配信しています

インターネットを利用した定例会の録画配信を行っています。町のホームページにアクセスしてください。
※「YouTube」による配信です。

QRコードからでもアクセスできます。



町長行政報告

報告された事項

第7回臨時会

（11月28日）

- 21世紀の森キャンプ場寝台車整備について
- まちづくり懇談会について
- 東京都清瀬市との交流について
- ポケモンマンホール蓋「ポケふた」設置について
- 「モンベルフレンドエリアオホーツク」への加盟について
- 石川県穴水町長の来町について

第8回定例会

（12月16日）

- ウッドデザイン賞の受賞について
- 「森の国・木の街」宣言について
- 農業センサス功績者農林水産大臣表彰について
- EZOHUB TOKYOを活用した津別町独自イベントの開催について
- 北海道大学の課外活動団体「HALCC」による成果報告会について
- 建設工事等の発注状況について



青年・女性と議員が ワールドカフェで語り合う

昨年引き続き5回目となる議会と住民による意見交換会を10月31日に開催。今回は、青年・女性団体等から22人と議員10人が、ワールドカフェ方式で、「津別町の未来を考える！」をテーマに、7グループに分かれて討論。途中、グループを変える席替えもしながら、津別町の未来について語り合いました。（主な意見を紹介します）



ワールドカフェとは

ワールドカフェは、カフェのようなリラックスした雰囲気の中、4〜5人のグループで「対話」を重視した話し合いの型式です。結論や解決策は求めず、新しい視点やアイデアを出すのが目的です。

この日集まったのは、10団体から22人。10人の議員は7グループのホスト（進行役）を担当し、ステップごとのテーマで話し合い、最後はグループ発表で共有しました。

あなたはどんな町が素敵だと思いますか？

ステップ1は、まずはどんな町に魅力を感じるか意見を申し合いました。

- ・ 声や形になっていくまち
- ・ 人と人をつなぐサポートや、伴走できる体制がある
- ・ 高齢者が社会活動できる
- ・ DX整備が進んでいる
- ・ 子育てに優しい
- ・ 水がおいしい
- ・ Jリーグの合宿が来る
- ・ 情報がどんどん発信される
- ・ コンパクトシティ



- ・ 世代関係なく関わりがある
- ・ リゾート地のようなまち
- ・ 毎年人口が増加している
- ・ 子どもがたくさんいる
- ・ 困りごとをすぐ解決できる
- ・ 名所・名イベントがある
- ・ 共働きあうまち
- ・ たくさん祭りがある
- ・ きれいなまち
- ・ 町民と交流ができる
- ・ 女性が活躍するまち
- ・ アクセスの良いまち
- ・ つながりが持てるまち
- ・ 有名な人が住む（文化・芸術）
- ・ 魅力を発信できるまち

ワールドカフェのテーマは

津別の未来を考える！

私たちにどんなことが
できるか？

ステップ2は、ホストを残して他のメンバーは席替えをしました。新しいメンバーで語り合うのは、「素敵な町をつくるために、私は、私たちはどんなことができるでしょうか？」です。

- ・地域のサロンに関わる
- ・飲屋のママさんになる
- ・SNSで売り込む
- ・情報発信スキルを磨く
- ・自他共にあいさつの強化
- ・津別のお土産を買いやすく
- ・困っている人の話を聞いて、得意な人につながる
- ・健康でいて、たくさん笑う
- ・飲食店をつくる
- ・町事を自分ごとに
- ・常に対話する
- ・雇用できる努力をする
- ・他市町から来た人との関わりを強化する
- ・異業種交流会を増やす
- ・関わりを持って輪を広げる

アドバイザー 田口一博氏 (新潟県立大学准教授)



7グループの発表後にそれぞれコメントをいただきました。

- ・町の皆さんが当たり前だと思っていることは、都心では贅沢であることをもう一度考えてみてほしい。(冬に雪が降る、家賃が安い等)
- ・空家の問題は、行政だけではなく不動産業者が入ることで解決できる問題もあるのでは。
- ・議員は外に出て営業をしなければいけない。それが町に来るお客さんの増加や合宿チームの増加等につながっていく。

ステップ3では、メンバーは元のステップ1のグループ

私は言いたい！
議会に！町に！



- ・戻り、議会に、町に対する意見を出し合いました。
- ・町の案内板を新しく統一する
- ・議員に要望したら答えが欲しい
- ・働き口の増、住宅の確保
- ・意見を形にしてほしい
- ・津高対策と別に高校生へ支援
- ・津高に来るための寮の整備
- ・町全体でSNS発信
- ・移住体験の復活
- ・病院小さくても残して
- ・冬期間バイトでできる場所
- ・子育てしやすいまち
- ・母親の社会復帰
- ・役場のガバナンス立て直し
- ・夜集う場所の充実
- ・ふるさと納税頑張る

参加者アンケート

- ・いろいろな意見が聞けて楽しかったです。道東テレビに協力いただき、情報技術者育成や、メイドイン津別の技術者を世界へ。
- ・初めての参加でしたが、皆さんと楽しく話すことができ、良い時間となりました。素敵な町と言ってももらえるように自分でできることをいろいろ考えたいです。
- ・皆さん津別が好きで何とかしたいという思いを持っているのだなと感心しました。
- ・若い人たちの意見、素晴らしかったです。今回出た意見をぜひ形にしてください。



を開催

第11回目となる議会報告会を11月21日午後6時から、さんさん館で開催し、12人が参加した中、議会の役割・構成・各常任委員会・全員協議会などの開催状況を報告。その後、4つの小グループに分かれて意見交換を行い、町政や議会に対するさまざまな意見・要望が出されました。なお、寄せられた主なご意見等を次のとおり整理しました。

ご意見・ご要望

- ・まちづくり基本条例について、今後どのように進めていくのか。

- ・相生の道の駅の指定管理者について、町民に全く知らされていないが、今後どうなるのか。また、指定管理者が変わった場合のクマヤキの商標権はどうなるのか。
- ・町会議員さんと町民と行政と、みんなでこの町を盛り上げていきたいという思いがあるので、みんなで一緒に頑張っていきましょう。
- ・人づくりというのがこの町で見られないので、行政に基盤をつくっていただいて、人づくりに力を入れてほしい。

- ・議会のライブ配信を検討してほしい。
- ・バイオマス熱供給システムの関係で、ケアハウス等に導入の話があるが、町の考えは分かるが、利用者の負

担について心配もあるし、今後のまちづくりの重荷にならないかも心配している。

Aグループ

参加者の意見

- ・レストハウスが休業中だが、チーズ工房などはどうなっているのか。今後どうしていくのか早く結論を出すべきではないか。



- ・タウンプロモーションの推進について、費用対効果はどうなのか。ふるさと納税を増やすのなら、新商品開発に力を入れるべきではないか。

- ・一般町民は、情報の中身までわからないのが現状ではないか。
- ・今、まちづくり条例の策定が行われているが、議会基本条例はどうなるのか。

Bグループ

参加者の意見

- ・人口減少の中でどのように充実した生活を送っていくか。(方法、地域と行政の一体化など)
- ・充実感をどのように得るか、住宅環境は改善しないと。(熊対策より熱中症対策が急務)
- ・花バスの利用者が少ないように感じる。タクシー券をもらっても、営業時間が短く使いにくい。
- ・定年退職された人の働く場所を増やすことは。
- ・町の企業を守る必要があるのでは。
- ・飲食店(夜営業)は人のつながりに重要。(従業員との交流含む)
- ・楽しいことがないと定住につながらない。既存団体でなくても趣味やライブツアー等への支援をしては。

Cグループ

参加者の意見

- ・サツドラ誘致後の状況はどうか。また、議会は経営状況の検証はしているか。
- ・まちづくり懇談会で津別病院の説明がされたが、今後どうするのか。
- ・若い人が集まれるような雰囲気をつくるべき。関係機関ごとに開催するのはどうか。
- ・議員定数特別委員会が開催されているが進捗はどうか。視察先の選定はどうしているのか、町民からの意見はあるか。
- ・丸玉木材が病院経営から撤退するとどうなるか。



「議会報告会」



参加者の意見

Dグループ

- ・ 今回の議会報告は、公園でのアンケートを含め良かったと思う。
- ・ 議会報は文字を変え等、見やすきの工夫で何を言いたいか協調を。
- ・ 津別の人口を増やす方策として、良いところのアピールをすること。津別の良いところはいっぱいあるので、住民意識を強めることで、Uターンにもつながるのではないか。
- ・ 議員は、学校の現状を知ってほしい。
- ・ 津高生はいきいきとしているので、その現状を町民にも知ってほしい。



より議会報告会アンケート

- ・ 意見交換はとても大切だと感じます。
- ・ 議会報告会、意見交換会の数を増やすのもいいかもしれませんが、話す場、聞く場、対話できる場を人数が少なくてもやったほうがいいのかもありません。
- ・ これからも頑張ってください。もう少し参加者が増えるといいですね。
- ・ 持続する町をつくるために、町内企業、観光、農林業の健全化をすること。
- ・ 普段から身近な議員でいてほしい。
- ・ 津別での仕事をつくってほしい。

「議員研修会」を開催

11月1日、議会議事堂にて、新潟県立大学国際地域学部 田口一博先生を講師に迎え、2つのテーマで議員研修会を開催しました。

①津別町の未来を考えるために、いま必要議員定数は？

議員の数はもちろん、町の規模や人口を考慮する必要があるが、津別町の規模等を考えると今以上に削減する必要はないし、むしろ少ないくらいである。問題は議員一人一人が町をより良くするためにどのように活動し議会に反映させていくかが課題である。

②議員になりたいと思う人を増やすには？

規制改革で成長政策が進められているが、地方議員にはさまざま規制が行われており、地方議会にも規制改革を行って自立性を高めることが必要であり、何より地域での豊かな生活が出来るならば、自治を担う人材は育たない。「あの人でない」と言われる人材が望まれる。



総務文教常任委員会道内行政視察報告



音更町 昭和学校Palette

令和7年10月14日～16日 音更町、浦河町、恵庭市

○参加者

高橋委員長・小林副委員長・篠原委員・山内委員・渡邊委員
鹿中議長

ビジネス創出拠点「昭和学校Palette」について

音更町

少子化に伴う廃校の有効利用というのは、非常に重要かつ難しい問題である。かねてより課題であった「企業誘致」「関係人口の増加」を商業の活性化に繋げるという課題を役場内から発案し、地域住民と共に作りあげられた施設であった。

また、「旧昭和小学校改修工事」に今後の避難所としての利用を見込み、非常に有利な起債である緊急防災減災事業債を活用し、利用しやすく持続可能なビジネス創出拠点としてうまく生まれ変わらせていた。

今後として、個人事業主の誘致、企業の研修、学生誘致、各種イベントなどから、様々な人を呼び込み、また、企業との連携を強化し、企業版ふるさと納税を財源に交流人口、関係人口の拡大に向け、子ども向け屋内遊戯施設を核とした観光拠点施設の整備による十勝川温泉地域活性化プロジェクト、宿泊施設の整備による昭和学校Palette機能強化プロジェクトに取り

組み、宿泊・研修・交流施設を整備しさらに人を呼び込みたいとのことであった。

行政と民間が共に地域を盛り上げていく『地域共創』の形がしっかりと作られ、結果として表れており、これからも伸びしろのある事業であると感じた。

外国人(インド人)コミュニティについて

浦河町

文化の違う外国人との共生はさまざまな問題があり、それぞれが非常に深く難しい問題であると、現場の生の声を聴いて改めて感じた。

言葉の壁は、さまざまなところに波及するが、特に、医療現場では、緊急の時などに言葉が通じないというにもならないとのこと。通訳1人では回りきらない。逆の立場で考えたとき、怪我あるいは体調不良の時に医者とのコミュニケーションが取れないとなると、どれほど不安であろうかと考えさせられた。

また、家族で来る場合、企業への従事者は良いが、特に子どもの対応について、日本語を話せない子の小学校入学について相談を受けるとのこ

と。言葉も通じないとなると、現場の苦労は想像を絶する。宗教観の大きな違いもあり、礼拝場や墓地問題等、これから解決していかなければならない問題である。

食文化についても大きな違いがあり、栄養面の違いなどもあるが、病院食、給食等、今後も検討が必要とのこと。

最後に、宗教や食文化等違いは多々あり、問題は山積しているが、外国人の労働力というのは今後必ず必要になってくる。お互いが歩み寄れるコミュニティの形成を模索していくことが肝要となる。

恵庭市生涯学習施設「かしのもり」について

恵庭市

地域の子どもたちは地域で育てる「地育」という理念が地域住民に浸透しているのだと深く感じた。

もともとこのような施設の建設を要望する声があったが、住民による土地の寄附により一気に話が進んだと伺った。

「知的好奇心を刺激するクラークルーム」「乳幼児の遊び場プレイスペース」等のほか、多機能にわたり地域住民が満足できる施設であると感じた。

施設に入るときさまざまなところに寄附された本が並べられており「本の回廊」として本に囲まれていた。



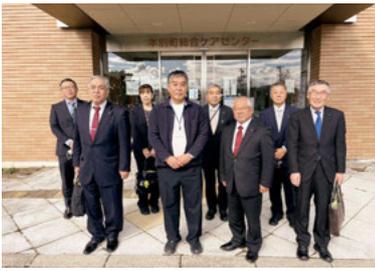
「かしのもり」内部の様子

緑のカフェは柏地区住民が中心となって運営しており、かしのもりに集う人々が交流を深め、売り上げは自主事業「緑のカフェコンサート」運営資金として活用されているほか、地区内にある小・中学校への学校図書充実のため寄附されていると伺った。

地域住民がさまざまなものを持ち寄り、自分たちも楽しみながら作り上げ、それがまた次の世代に繋がっていく素晴らしい施設であると感じた。

施設を建てるだけでなく、どのように利用していくかが肝要であり、そのためには地域住民の力が一番大切である。

産業福祉常任委員会道内行政視察報告



本別町 総合ケアセンター

令和7年10月20日～22日 更別村、大樹町、本別町

○参加者

山田委員長・細川副委員長・巴委員・佐藤委員・鹿中委員

農業DX構想の取り組みについて 更別村

十勝平野で、大型機械化農業を進め、農家所得日本一を目指すという更別村の意気込みを感じる。スマートフォンの普及率は120%と、高齢者も含めてデジタル化を推進して便利で暮らしやすいまちづくりを国の交付金も活用しながら進めている状況を知ることができ参考になった。



更別村役場

農業が基幹である津別町は、中山間地域の典型的な地形であり、広大で平坦な更別村とは条件も違っているが、DX農業推進は将来の農業には絶対必要なことから、知恵と工夫でDX整備を進めていかなければならない。

木質バイオマスと太陽光発電等を活用したスマート街区構築について 大樹町

多くの自治体が公共施設の更新時期となっており、大樹町においても公共施設群の更新期を迎えて、将来を鑑みスマート街区を形成し施設のランニングコストの効率化を図った取り組みである。津別町においても人口減少が進む中、街のコンパクト化、施設の複合化は常に念頭に置かなければならない課題であると考えさせられた。

一方、原材料は、町産カラマツ製材をチップにしているとのことだが、津別町は山の中にある未利用材の活用や河川敷工事の際に出る廃材なども原料にしていることから、津別の方が地域内資源を循環的に活用し、つべつウッドロスマルシエとして町民から庭木や山からの木材を引き取る取り組みなど、町民を巻き込んだ取り組みの優位性を感じたが、ボイラー燃焼室内や排煙煙突内のダストカーボン処理頻度の検証も必要と考える。ボイラーの更新は20年から25年程度と想定されていた。



木質バイオマス施設見学

新たな生活課題への支援の展開について 本別町 総合ケアセンター

本別町は「福祉でまちづくりを進める町で、町と社協との連携も良い関係で進んでいる。あんしんサポートセンターのこれらの業務を社協職員4人で行っているということで、業務量は相当多いと思われる。職員の業務量の均一化をするため、相談件数や内容などを、アプリを使って数値化し均一化に努めているなど参考になった。

国でも身寄りのない高齢者等が入院したときの支援や死後事務などを新日常生活自立支援事業で行えるよう社会福

祉法の改正を来年の通常国会で予定する動きもあるが、この問題は病院、葬儀など地域性もあることから、必ずしも法が整備されたから各市町村で実施できるというものではなく、すでに実施している本別町などの事例を参考に地域にあった制度設計が必要で今後とも動向を注視したい。

今回の視察では、説明は社会福祉協議会の職員が行ってくれたが、説明スライドなどは生成AIを使って資料を読み込ませて作成した動画で説明するなど、業務の効率化が進んでいるのを実感した。

親子で暮らす家庭がやがて子どもが働き場所を求めて町を離れ夫婦2人になり1人になる。全てではないが家族や頼れる親戚や仲間がいる人もいるが、頼りにできた周りの仲間も歳をとり、必ずしも頼りにできない現状がある中、頼れるところ（社会福祉協議会）がある本別町の人は幸せだと思う。「遠くの親戚より近くの他人」という言葉が頭に浮かんだ。誰一人見捨てない本別町の福祉に対する気概を感じた。津別町も見習いたい。

議会日誌

10月

- 14～16日 総務文教常任委員会道内行政視察
(音更町、浦河町、恵庭市)
- 17日 令和7年度北網ブロック市・町議
会正副議長会議
- 20～22日 産業福祉常任委員会道内行政視察
(更別村、大樹町、本別町)
- 24日 オホーツク圏活性化期成会秋季要
望(札幌市)
- 28日 第2回決算審査特別委員会
- 31日 青年・女性団体と議会議員との意
見交換会(津別町)

11月

- 1日 議員研修会(津別町)
- 4日 道東4地区管内町村議会議長会
連絡協議会(音更町)
- 6日 第6回総務文教常任委員会
- 7日 第8回産業福祉常任委員会
網走郡下町議会議長・副議長会議
(大空町東藻琴)
- 12日 オホーツク町村議会議長会役員会
・町村議会議長全国大会(東京都)
- 21日 議会報告会(津別町)
- 27日 第8回議会運営委員会
- 28日 第7回津別町議会臨時会

12月

- 1日 第7回総務文教常任委員会
- 2日 第9回産業福祉常任委員会
- 10日 第9回議会運営委員会
- 11日 第6回全員協議会
- 16～17日 第8回津別町議会定例会
- 17日 第7回全員協議会
第4回議員定数調査特別委員会

意見書

関係行政庁へ
提出しました

■適格請求書等保存方式(インボイス制度)の廃止等を求める意見書

【要旨】

令和5年10月、複数税率制度に対応した仕入税額控除の方式として「適格請求書等保存方式(インボイス制度)」が導入された。この制度では、インボイス発行事業者でない取引先からの仕入れについては仕入税額控除ができず、主に小規模事業者や個人事業者である免税事業者が取引先からインボイス発行を求められ、発行できない場合には不当な値下げや取引の打ち切りを迫られるなど、取引上の不利益を受ける懸念が現実のものとなっている。

また、インボイス発行事業者となれば、消費税の申告・納付が義務づけられ、税負担と煩雑な経理事務という二重の負担を強いられる。

全国的にも、令和6年に休業・廃業・解散した企業は前年より約1万件増加しており、制度導入が小規模事業者の経営を圧迫していることは否定できない。さらに、平成15年から令和6年にかけて法人税の実効税率は40.87%から29.74%へと引き下げられる一方、消費税収は令和5年度で約23兆円に達し、法人税収(約16兆円)を大きく上回っている。このことは、税の公平な負担の在り方を根本から問い直すものであり、負担が小規模事業者や消費者に偏っているとの批判が強まっている。

これらの状況を踏まえれば、国による支援措置の拡充だけではもはや不十分であり、小規模事業者やフリーランスの経営の持続化、地域経済の活性化を図るためには、インボイス制度そのものを廃止することが最良の策であると言わざるを得ない。

よって、本議会は、国においてインボイス制度等の事業者に過度な負担を与える制度を早急に廃止することを強く要望する。

はるま

今年2026年は、スポーツの大きな大会が目白押し。今月の6日から冬季オリンピック・パラリンピックがイタリアで開催。3月には、WB C(ワールド・ベースボール・クラシック)が日本・アメリカ・プエルトリコで開催。そして、6月から7月にかけてはアメリカ・メキシコ・カナダの共同開催でサッカーワールドカップと、まさにスポーツの祭典となる1年です。皆さんは、どの競技、どの選手を応援しますか。テレビにくぎ付けの毎日かもしれません。

さて、津別町議会も今年には議会改革の1年になるよう取り組んでいきます。昨年から設置している議員定数調査特別委員会は、12月定例会での報告を目指し審議を深めていきます。単に議員定数を何人にするのかだけでなく、町民の皆さんにとって議会や議員活動の見える化のため、何を改革していくのか検討を深めていきます。

今年の干支は丙午(ひのえうま)。情熱や変化がテーマになる1年ともいわれます。年男でもあり、挑戦の1年になりたいです。

(山田)